

## 第2期ロジスティクス環境会議 第5回企画運営委員会 議事録

I. 日 時：2007年6月1日（金） 13：00～14：30

II. 場 所：東京・港区 （社）日本ロジスティクスシステム協会 会議室

III. 出席者：23名

IV. 内 容：

- 1) 研究会、委員会の2007年度活動内容について
  - (1) グリーン物流研究会
  - (2) CO2削減推進委員会
  - (3) グリーンサプライチェーン推進委員会
- 2) 環境負荷低減活動推進の手引き（仮称）作成について
- 3) CGLメンバー企業のCO2排出量の収集等について

V. 開 会

事務局の徳田専務理事より開会が宣された後、2007年5月より日本通運の荒木委員の後任として、副委員長に就任された上村副委員長の挨拶がなされた後、杉山委員長の司会のもと、以下のとおり議事が進められた。

VI. 報 告

事務局より、資料1に基づき、第2回本会議についての報告がなされた。

VII. 議 事

1) 研究会、委員会の2007年度活動内容について

(1) グリーン物流研究会

事務局より、資料2に基づき、グリーン物流研究会の活動方針、2006年度活動結果及び2007年度活動内容について説明が行われた後、同研究会の幹事である下村委員より、①環境会議メンバーを中心として多くの方々に御協力いただきながら運営を実施している、②10月以降のテーマについては毎会合後実施しているアンケート結果等を参照しながら決定する、③研究会の活動内容についてはブログで情報発信している旨の説明がなされ、了承された。

(2) CO2削減推進委員会

事務局より、資料2に基づき、CO2削減推進委員会の活動方針、2006年度活動結果及び2007年度活動内容について説明が行われた後、同委員会の委員長である増井副委員長より、①積極的な意見交換を進めるため、2つのWGを設置する、②改正省エネ法については、第1回の定期報告等がなされた後、問題点・改善要望点等の収集を行う旨の説明がなされた。続いて、同委員会の副委員長である高松委員より、WGにおいてメンバーが抱えている課題を議論し、解決の方向性をまとめたい旨の説明がなされ、了承された。

(3) グリーンサプライチェーン推進委員会

i) 取引条件分科会

事務局より、資料2に基づき、グリーンサプライチェーン推進委員会の活動方針、及び取引条件分科会の2006年度活動結果及び2007年度活動内容について説明が行われた後、同委員会の委員長である山本委員より、①加工食品をモデルとして、多頻度小口配送削減のための共同配送推進ガイ

ドの検討を進めている、②一般的な共同配送ガイドはすでに多数存在しているが、環境負荷低減を目指す視点からの「エリア共同配送」という今までとは異なる視点での検討を進めている旨の説明がなされた。続いて、同委員会の副委員長である恒吉委員より、①実効性のあるガイドの作成を目指す、②加工食品を取り扱っているメーカー、卸、小売メンバーを中心に議論を進めているが、他業界のメンバーの知見をいかに反映していくかが今後の課題である旨の説明がなされた後、了承された。

#### ii) 源流管理分科会

事務局より、資料2に基づき、源流管理分科会の2006年度活動結果及び2007年度活動内容について説明が行われ、了承された。

#### (4) 全体を通して

##### 【主な意見】

委員：第1期の最後に採択した「ロジスティクス環境宣言」の実践に向けて、第2期活動を進めていると理解しているが、①自らの環境負荷を下げる、②取り組む仲間を増やす、③情報発信を行うといった3点の進展度合いについて、事務局として把握しているのか教えていただきたい。またそれらを進めるためのステップも検討すべきではないかと考える。

事務局：定量的な把握は行っていないが、研究会、委員会を運営する中で、①と③については実施に向かっているが、②についてはまだ十分になされていないと考えている。したがって、本日、次の議案でその対応方を御提案させていただきたい。

委員：改正省エネ法の第1回報告書、計画書提出の前に、環境会議からメンバーに対して記載方法等のヘルプ等を行うといった活動も必要ではないか。

委員：行政への提出前に、他社の報告書を見ることができれば、たいへん参考になる。

委員：環境会議全体として行うことは難しいと考える。したがって、行政への報告書提出前ではなく、提出後になってしまうのは仕方がないと思われる。

委員：取組みが遅れている企業に手を差し伸べるという発想の方が重要だと考える。

委員：当社においても、関係会社とノウハウを共有しながら活動を進めており、ご指摘されたような視点は持つべきだと考える。

委員長：本日出された意見を踏まえて、対応できる部分については対応していただきたい。

#### 2) 環境負荷低減活動推進の手引き（仮称）の作成について

事務局より、資料3に基づき、環境負荷低減活動推進の手引き（仮称）の作成について（案）の説明が行われた後、本年4月に作成された「物流現場改善推進のための手引書」の作成に携わられた一ノ瀬委員より、作成にあたって考慮した点等の説明がなされ、以下の意見交換がなされた後、了承された。

##### 【主な意見】

委員：「物流現場改善推進のための手引き」の制作部数について教えていただきたい。

事務局：5,000部制作したが、会員企業から問い合わせが多く、増刷することとなった。

委員：“小規模企業を対象”とあるが、環境会議メンバー企業やその関係会社においても、それぞれの現場は各事業所単位となり小規模であるため、有用なツールになると考える。

委員：“環境”を強く意識させすぎると、敷居が高くなってしまう場合もあると考える。したがって、「作業改善や効率化により環境負荷も低減する」といった考え方の方がよいと考える。

委員：「物流現場改善推進のための手引き」に、環境負荷低減効果の数値を入れるだけでも十分有用なツールになると考える。

委員：実際に中小企業に配布するのであれば、中小企業庁や商工会議所とタイアップするといった仕掛けづくりも検討すべきだと考える。

委員：研究会や委員会において、現在検討を進めている内容についても当該手引きの中に掲載するのか教えていただきたい。

事務局：今回御提案させていただいている手引きに内容に近いものとしては、源流管理で検討しているチェックリストがある。したがって、チェックリストのサマリー的なものを掲載しつつ、第1、2期のアウトプットの内容も盛り込めればと考えている。

委員：「仲間を増やす」ことは賛成であるが、環境会議メンバーを増やすと言った視点での活動も必要だと考える。

### 3) CGLメンバー企業のCO2排出量の収集等について

事務局より、資料4に基づき、CGLメンバー企業のCO2排出量の収集等について（案）の説明が行われた後、了承された。

## VIII. その他

### 1) 行政動向について

#### (1) 京都議定書目標達成計画の評価・見直しについて

事務局より、資料5、参考資料4-1、4-2に基づき、現在、行政で進められている、京都議定書目標達成計画の評価・見直しについて説明が行われ、以下のような意見交換が行われた後、状況によっては、環境会議として意見書を取りまとめることを検討することが確認された。

#### 【主な意見】

委員：「運輸部門におけるCO2排出」というと、輸送事業者が悪者にされがちであるが、実態は貨物分野より自家用車にかかわる部分の増加率が大きいことから、それらを区分して、議論すべきだと個人的に考える。

委員：本計画の評価・見直しに関して、環境会議として積極的な取り組みを進めるべきだと考えるが、実施している行政部局とのつながりがあるのか教えていただきたい。

事務局：2月13日の合同会議については、合同会議事務局からの依頼により、北條が出席し、現状の説明を行ったという経緯がある。その結果等もあり、論点整理の中に、商慣行や着荷主の問題が取り上げられたと考えている。ただし、それ以降、実施部局との意見交換等は行ってないことから、今後必要に応じて、事務局として何らかの対応をとる予定である。

#### (2) 事業活動に伴って排出される一般廃棄物である木くずに係る廃棄物の区分に関する検討結果報告（案）について

事務局より、資料6、参考資料5に基づき、現在、環境省で進められている、事業活動に伴って排出される一般廃棄物である木くずに係る廃棄物の区分に関する検討結果報告（案）について説明が行われ、以下のような意見交換が行われた。

#### 【主な意見】

委員長：資料6に「少なくない量」とあるが、数値としてどのぐらいの量なのか教えていただきたい。

事務局：「約88万トン強程度」と記載されている。

委員：物流事業者としてはありがたい内容だと考える。ただし、第1期リバースロジスティクス調査委員会では「排出事業者によって、産業廃棄物と一般廃棄物を選択できるようにしてほしい」という提言であったが、それについては、処理責任があいまいになるということで認められなかった。

## IX. 閉会

以上をもって全ての議事を終了し、杉山委員長は閉会を宣した。

以上